

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教育学部4年

参加プログラム: European Studies Programme 派遣先大学: Sciences Po

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: Management Consultancy) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

Sciences Po(パリ政治学院)。フランスの社会科学系大学のトップ。政府・EUレベルの Decision Making に参加しているレベルの教員、意識が高く明晰な学生が揃う。

参加した動機

将来のキャリアに必要な知識・スキルを得られると考えたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
三井住友海上保険 海外旅行保険

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
EUの成り立ちに関する本は最低1冊は目を通した方がよい

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的に講義形式。但し、プレゼン・ディベート・ディスカッション・エッセイがある。
ブリュッセルへのフィールドワークも含まれる。

②学習・研究面でのアドバイス

講義で質問や自分の意見を言わなければ、参加する価値が半減する。また、プレゼンやディベートなど、主体的な形式でも、自分から手を上げなければ参加するチャンス自体を失う。優秀な院生や教授がサポートしてくれるため、エッセイ等はただ書くだけでなく、その仮定で議論を行うことに最大の意味がある。

③語学面での苦労・アドバイス等

フランス語が全くできなくても大丈夫だったが、できればさらに楽しそう。
英語は最低限必要だが、それ以上は行動力の方が大事。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

当初は寮の予定だったが、フランスらしい不手際から、結局はホテルに滞在した。幸いにも、ホテルの方が環境が良かった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

交通費は支給される。去年は毎日零下で、今年は毎日 10℃以上。例年天気が大きく違うことに注意。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) スリが多い。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) どれだけ遊ぶかによる。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) やることは無限

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 大学院生が親身にサポートしてくれる。積極的になれば教授も ok

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 図書館が素晴らしい。スポーツ施設はなし。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所

②参加後の予定
就職

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

EU や東アジアの政治経済に問題意識を持って参加すると楽しい。

但し、積極的に参加できる自信がないと、ただレジャーを楽しみに行くだけになりかねない。プログラムの意義、どれだけ成長できるか、はどれだけ積極的に参加できるかにかかっている。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部社会基盤学科・3年

参加プログラム: European Studies Programme 派遣先大学: パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界: 未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国際関係・政治の分野におけるフランス屈指のエリート校。

参加した動機

経済分野において東アジア諸国の一層の協力と融和が必要であると指摘されている中で、特に労働移民に関する議論に興味があった。シェンゲン協定などにより移民のEU内での移動を推進しているEUが現在抱えている問題などを現地の教授から教わりたかった。また、理系なので経済・国際関係などの授業を受ける機会がなく、文系寄りの知識も身につけたいと感じたのが動機である。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

パリ政治学院の担当者の方は問い合わせれば丁寧に返事を下さるが、かなり頻りに休暇をとってしまうので注意が必要。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

不要

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外旅行保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

工学部は試験が終わっていたので特に何も必要なかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語はかなりハイレベルのリスニング・スピーキングが要求される。
 フランス語も日常会話程度のレベルを話せば生活もより楽しめる。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

経済・国際関係・アイデンティティの3分野から2つを選んで受講するが、受講する分野の書籍などを読んでおくことで授業の理解度が上がると思う。

また、英語でエッセイを書く練習をしておけば最終エッセイのときにあまり苦しまずに済む。

フランス語会話の習得もかなり役立つ。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

講義はパワーポイントを使ったプレゼンテーション形式。ただし、途中でどんどん手を挙げて質問・発言することが奨励されるので受け身にならないように心がけたい。

②学習・研究面でのアドバイス

内容は理系にとっては高度な内容が多かったが、質問をしたり補足資料を読めば理解可能なのであまり難易度に関しては心配無用である。

授業においてはやはり積極性が重視されるので、恥ずかしがらずに喋り、自分の意見を主張していく癖を付けて帰ることができる。

③語学面での苦労・アドバイス等

フランス語の勉強を強く薦める

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
すばらしい施設であった。キッチン付きの相部屋で、相棒と仲良くなれば最高の1ヶ月になる。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
2014年は暖冬だったのでかなり過ごしやすかった。例年はもっと寒いらしい。
フランスのメトロは本数も多く、わかりやすいので私は大ファンになった。ただしスリが多い(らしい)のと、ストライキが多いのが欠点である。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
パリ政治学院のある地域の治安はとても良かった。
北部は悪いみたいなので、場所を選べば大丈夫である。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃 12万
授業料/居住費 50万
食費/娯楽費 15万 (明らかに使いすぎた。旅行代、服、食費がメイン)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO からの10万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
美術館はすべて行った。学生割引が効くのでぜひ行くべき。
ベルサイユ、モンサンミッシェル、パリ市内観光を土日にした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

現地の大学院生がチューターとして配属されるので、彼らと仲良くなればバーにも連れて行ってくれるし英会話の練習にもなるのでどんどん声をかけるべき。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館はいつも混んでいて、なかなかパソコンを確保するのが難しい。
食堂では学外に比べて割安でパンなどを買える。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

もちろん EU の経済・外交・移民問題についての知識は深まり、また EU 内に限らず世界全体の動向についても詳しく知ることができたが、それ以上に身に付いたのは「積極的に尖ること」である。

日本では、受け身の学習が恒常化しており、なかなか手を挙げて発言したり先生を止めてまで自分の疑問を解消するなどということをしなかったし、それが自分にとって普通であった。

しかし、パリ政治学院の生徒の授業を受ける態度や教授陣の「突っ込み待ち」のスタンスを1ヶ月肌で感じたことで、受け身にならずに積極的な姿勢を持ち、さらにもちろん良い意味で、ある程度自己中心的になることの大切さに気づくことができた。

これはフランスで1ヶ月を過ごしたからこそ得られた財産でありどのような場面でも生かせると思うので、忘れないようにこれからも実践していきたい。

②参加後の予定

4年生になると研究室に入り本格的に研究が始まるので、ここからは切り替えて自分の本来の専門分野を勉強したい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは参加するだけではただの旅行になってしまうだろう。

フランスの教育スタイルに触れることで自分の勉強に対する姿勢や発言能力を飛躍的に伸ばしたいという意欲があり、周りの日本人学生の目を気にせず積極的に尖っていく気概のある学生なら必ず有意義な1ヶ月になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部 4年

参加プログラム: European studies program 派遣先大学: パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

パリ政治学院は歴代の多くのフランス、世界の政財界で活躍する人物を多くを輩出する社会科学系の名門校の一つである。主となる建物はセーヌ左岸の5区に位置し、サンジェルマン・デ・プレ、ルーブル宮殿に隣接する非常によい環境にある。パリ以外にもル・アーヴルやリヨンなどにもキャンパスを有する(本プログラムでは日帰りのル・アーヴルキャンパス訪問以外全ての授業がパリで行われた)

参加した動機

①欧州連合の、政策決定(特に対外関係・安全保障)における合意形成過程
②拡大する欧州連合のアイデンティティ・存在意義のゆらぎ
に関心を抱いており、ちょうどそれらに関する講義が行われるため。また、英語を用いた授業に参加することで英語運用能力の更なる向上を図るため。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
大学からの書類をよく読み、不明なことは担当部署に問い合わせれば親切に教えてくれるため、プログラムに興味を持ち次第早めに行動を起こせば問題はない。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは不要
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
滞在地はフランスのみであり、特定の予防接種などは不要である。ただし、時節柄フランスでもインフルエンザが大流行しており、インフルエンザの予防接種は受けても良いであろう。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
ジェイアイ傷害火災保険株式会社の tabiho に加入。保険の選択の上では「保険の窓口」を利用した。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
卒業論文審査会が日程とかぶってしまう可能性があったため、早めに担当教官に相談した。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
英語圏への留学経験はなく、全て東大の授業で英語は勉強した。
フランス語は第2外国語として東大で勉強しており、短期留学の経験もあり。
- ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
・英語によるディスカッション、質問力を磨くと本プログラムが非常に実りあるものとなる。
・パリであれば英語のみで生活可能だが、フランス語の掲示しか存在しない場所(美術館の解説など)も多々存在するため、フランス語力がある程度あることが望ましい。
・後述するがパリ政治学院はハード面の設備が東大に比べてよろしくないため、滞在中の物理的な学習スペースを確保しておく、公園で青空の下レポートを書かないで済む。

学習・研究について

- ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業のスタイルはパワーポイントを中心とする講義形式だが、主体的な生徒の参加が求められている。しかしながら、受講生は日本人中心であり積極的に授業に参加できておらず、授業の雰囲気は教員の意図するほど盛り上がっている回はまれであった。
講義はほとんどが単発で予復習は重要ではない。しかしながら、中盤で多肢選択式のテスト、最後に10枚程度の英文エッセイの提出がもとめられる。エッセイに関しては、チューターが親身に相談してくれる。
- ②学習・研究面でのアドバイス

特になし

③語学面での苦勞・アドバイス等

特になし

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学から呈示されたアパートホテルは①ルームシェアであること、②値段が張ること、③参加者の大半が日本人であり日本人とルームシェアをすることが自分にとってあまり有意義ではなかったこと、を理由に利用しなかった。そのため、知人宅に泊まったり、自分で宿・アパートを借りたりした。宿・アパートは全て Expedia と Booking.com の口コミとお値段を参考に予約した。

結果的にフランス人の知人宅に泊まったりすることで、フランス人の生活を垣間見ることができ、有意義であったが、引っ越しが大変であった。パリの地下鉄はバリアフリー化がほぼ進んでおらず、エスカレーター・エレベーターが上り下り共に使えることはほぼない。その中で重い荷物を引いて歩くのは非常に苦痛であった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

生活環境全般は非常に良好である。大学の立地は非常によい。パリは言うまでもなく多様な文化施設が存在し、パリ政治学院自体それらにアクセスしやすい位置にある。食事はレストランで食べると高額になることが不可避なため、食費は日本で使う分よりも多めに見積もることをおすすめする。お金は現金でユーロを持ち、主に決済にはクレジットカードを利用した。保険として現金 10 万円を忍ばせていたが、幸い使うことなく滞在を終了することが出来た。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

留学先はパリの中心部に位置し、人の往来が激しいため危険な目にあったことは一度もない。パリのメロはその雰囲気悪さから有名であるが、きちんと自分の荷物に注意を払えば問題ない。スリは多発しているらしいため、自分は使う分の小銭(昼食代など 10~15 ユーロ)を常に上着のポケットに入れておき、人前で財布を出さないよう意識していた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

授業料: 34 万弱

航空券代: 約 17 万

宿代: 10 万円程度

交通費: プログラム期間中 zone1 から zone2 までメロ・バス・RER・Transilien が乗り放題のカードをもらえるため、パリ市内の交通費を用意する必要はない。ブリュッセル、ル・アーヴルへのスタディーツリップに必要な交通費・滞在費は授業料に含まれている。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大から参加者が全員もらえる 10 万円の奨学金のみ

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

25 歳以下であれば学生証を提示して主要な美術館に無料で入館することが出来る。ルーヴルやオルセー、オランジュリーなど隣接する美術館を訪問するだけでも非常に価値がある。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

優秀なチューターがレポートの作成をサポートしてくれる。また、事務も親切であり、問い合わせに対する対応スピードは速い。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

ハード面の環境は東大に比べて非常に不満が残る。何もかもが東大に比べて狭いということを留意する必要がある。非常に困ったのはワークスペースがほぼ常に満席であるということであり、資料を借りて宿泊先などでレポートに取り組んだほうが効率的であろう。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

欧州に関する沢山の専門家から話を聞くことができ、複雑な欧州の意思決定プロセスへの理解を深めることが出来た。特に、関心がある分野にちょうど詳しい教員と接する機会があったため、非常に参考になった。

本プログラムは講義で欧州・欧州連合に関する理論的な理解を深めた上で、欧州連合の機関(欧州委員会、欧州議会)を訪問して実質的な理解を深め、エッセイとしてそれらをまとめるという非常に図式的にもよく考えられたプログラムであると考えられる。ただ、エッセイを書く時間はあまりないため、全体的に駆け足であるという印象は拭い得ない。

海外の大学の授業の雰囲気に触れるという意味でも参加をする意義はあると思う。そして何より立地が非常に良いため、学業のみならず文化的にも有意義な一月を過ごすことが出来た。

②参加後の予定
公務員として就職

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
参加費用がかかりますが、先生たちは非常に熱心に教えてくれますし、システマティックに作られたプログラムだと思います。ぜひ、参加を検討してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。